

8月24日は薬害根絶の日

薬害根絶は 私たち医療人の願いです

1999年8月24日、厚生省は薬害エイズ事件を反省し、再発防止を決定する「根絶の碑」を庁舎正面に建立しました。

翌年からこの日を「薬害根絶デー」とし、薬害被害者の団体・薬被連が国と交渉をおこなっています。私たちはも、この行動に合わせて薬害防止を訴えています。



薬害イレッサの教訓

肺がん治療薬イレッサは、わずか5カ月の審査で2002年7月に承認され、発売後半年で180名、現在まで800名をこえる死者が出ました。

臨床試験での死亡例を伏せ「副作用の少ない夢の新薬」と宣伝されていたことが原因です。

最高裁では敗訴しましたが、臨床医に危険性が伝わらなかった「医薬品添付文書」の改善が必要です。

十分な情報無しで販売開始する抗がん剤の、副作用被害を救済する制度を作りましょう。



第三者監視組織をつくらう

薬害肝炎訴訟の原告団・弁護団と厚生労働省が結んだ「基本合意」にもとづき、「薬害肝炎検証再発防止委員会」が、2010年4月、「最終提言」をまとめました。

この中で、薬事行政を監視・評価し、薬害を防止する常設の「第三者監視・評価組織」を提案しています。

薬害の連鎖を断つため、いまだに実現されていない、第三者監視組織の実現を国に働きかけていきます。



こんなにあった日本の薬害



1956 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもった子どもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レント博士の警告後、9カ月間も販売を継続。

1965 アンプル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者。発売中止に

1970 スモン

下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1971 クロロキン

抗マラリア薬による視力障害。

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された。



1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続いた。医療機関に対する危険性情報の伝達不十分が原因。

1989 MMRワクチン

3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1993 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 薬害ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。アメリカでは87年に輸入を禁止。日本での使用禁止は10年遅れの97年。

2002 薬害肝炎

C肝炎ウイルスに汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、少なくとも1万人以上が感染。被害者が全国5地裁で提訴。2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002 薬害イレッサ

肺がん治療薬、発売直後から副作用死多発。抗がん剤の承認・安全性情報伝達に改善課題を残した。

2006 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡。2007年、10代の子どもには使用禁止に。

詳しく知りたい方は

- ・薬害薬害根絶デー 書庫
- ・全国薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）

<http://www.gaiki.net/yakugai/ykd/>
<http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/>

8月24日は薬害根絶の日

薬害根絶は 私たち医療人の願いです

1999年8月24日、厚生省は薬害エイズ事件を反省し、再発防止を決定する「根絶の碑」を庁舎正面に建立しました。

翌年からこの日を「薬害根絶デー」とし、薬害被害者の団体・薬被連が国と交渉をおこなっています。私たちはも、この行動に合わせて薬害防止を訴えています。



薬害イレッサの教訓



肺がん治療薬イレッサは、わずか5カ月の審査で2002年7月に承認され、発売後半年で180名、現在まで800名をこえる死者が出ました。

臨床試験での死亡例を伏せ「副作用の少ない夢の新薬」と宣伝されていたことが原因です。

最高裁では敗訴しましたが、臨床医に危険性が伝わらなかった「医薬品添付文書」の改善が必要です。

十分な情報無しで販売開始する抗がん剤の、副作用被害を救済する制度を作りましょう。

第三者監視組織をつくらう

薬害肝炎訴訟の原告団・弁護団と厚生労働省が結んだ「基本合意」にもとづき、「薬害肝炎検証再発防止委員会」が、2010年4月、「最終提言」をまとめました。

この中で、薬事行政を監視・評価し、薬害を防止する常設の「第三者監視・評価組織」を提案しています。

薬害の連鎖を断つため、いまだに実現されていない、第三者監視組織の実現を国に働きかけていきます。



こんなにあった日本の薬害



1956 ペニシリンショック

アレルギーによるショック死

1961 サリドマイド

睡眠薬を妊娠中に服用し、手足や耳に奇形をもったこどもが生まれた。被害児は世界で数千人。日本約千人。日本では、レント博士の警告後、9カ月間も販売を継続。

1965 アンプル入りかぜ薬

大衆薬で死亡者。発売中止に

1970 スモン

下肢の麻痺や視力障害などの末梢神経障害が多発。70年に殺菌剤キノホルムが原因と判明。被害者約12000人。1935年には副作用の警告があったのに、整腸剤として大量販売した。

1971 クロロキン

抗マラリア薬による視力障害。

1983 薬害エイズ

エイズウイルスにより汚染された血液凝固因子製剤により血友病患者約1800人がHIVに感染した。アメリカでは安全な加熱製剤が83年に実用化。日本では85年まで危険な製剤が使用された。



1988 陣痛促進剤

陣痛促進剤により、母子の死亡や重大な障害を残す被害が続いた。医療機関に対する危険性情報の伝達不十分が原因。

1989 MMRワクチン

3種混合ワクチンにより死亡者や重い障害が発生

1993 ソリブジン

抗がん剤との併用で死亡者多数

1996 薬害ヤコブ病

脳外科手術に使用したドイツ製ヒト乾燥硬膜がプリオンで汚染。100名以上がヤコブ病を発症し、植物状態の後に死亡。アメリカでは87年に輸入を禁止。日本での使用禁止は10年遅れの97年。

2002 薬害肝炎

C肝炎ウイルスに汚染された血液凝固因子製剤を投与されたことで、少なくとも1万人以上が感染。被害者が全国5地裁で提訴。2008年に国・製薬企業と基本合意。

2002 薬害イレッサ

肺がん治療薬、発売直後から副作用死多発。抗がん剤の承認・安全性情報伝達に改善課題を残した。

2006 薬害タミフル

インフルエンザの治療薬を服用した後、飛び降りなど異常行動で死亡。2007年、10代の子どもには使用禁止に。

詳しく知りたい方は

- ・薬害薬害根絶デー 書庫
- ・全国薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）

<http://www.gaiki.net/yakugai/ykd/>
<http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/>